



東京八王子プロバスクラブ
創立1995年10月18日

プロバスだより

第154号

2008年9月11日発行

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

編集・発行：情報委員会

2008～09年度テーマ

『学びそして発信しよう、より豊かな地域社会を求めて』

第154回 例会

- ・日時：平成20年8月14日（木）12:30～15:30
- ・場所：八王子エルシィ 3階
- ・出席者：出席58名 出席率86.6%
- ・ご来賓：ございません。

1. 多村例会委員長の司会で開会
2. 会食(12:30～13:00) 天ざる
3. 矢島会長挨拶

立秋も過ぎ暦の上では秋でございますが、相変わらず毎日茹だる様な暑さの中で、8月



例会に大勢の会員の方に参加いただきありがとうございました。特に今月はお盆の時期と重なりご迷惑をお掛けした方がおられるかと思いましたがどうぞご容赦を願います。7月の定

時総会も無事終わりました、早いものでひと月が経ちました。各委員会ごとの恒例の懇親会も終わりました、新年度の活動が開始されました。プロバスだよりも今年度からカラー刷りになりましたように、各委員会も計画に沿って様々なプランが協議されていますので、近いうちに皆様にお返りすることが出来ると思います。

さて話は、北京オリンピックになります。八王子出身や八王子にある大学を含めると14人の方々がオリンピックに参加しております。その中の一人の中村美里さんはオリンピックに初めて参加し銅メダルをもらいました。普段でも暑い八王子の夏がこのニュースが駆け巡ると更にヒートアップしたのではないかと思います。また、男子の柔道や競泳の前の金メダリスト達が、重圧にもめげず、故障やスランプを克服して2連覇を果たす素晴らしい活躍がありました。私もテレビ観戦の中で久しぶりに感動をさせていただきました。まだまだ日本選手の素晴らしい活

躍が続くものと思います。暫くはテレビの前から離れられないと思います。何もできませんが、せめてテレビの前で大きな声で応援をしたいと思っております。暑さもしばらく続くものと思っています。会員の皆様には、十分に健康に留意していただきまして9月の例会には元気でお集まりください。

4. 議事

(1) 幹事報告 (矢崎幹事)

1. 会員動向
会員71名 (内4名休会) 実働数67名
2. 西ロータリークラブから卓話の要請があり、調整中です
3. 南ロータリークラブから8月20日の例会時に、市役所から職員による、八王子南口開発状況、高尾周辺の開発等につき卓話がある案内です。出席希望は連絡を。

(2) 各委員会報告

◆情報委員会 (長谷川委員長)

『プロバスだより』この形で1年継続します。カラー刷りですので、いろいろ発信を。

◆会員委員会(下田委員長)

特に報告することはありません。

◆研修委員会 (橋本委員長)

11月の野外研修は、委員会で検討した結果、お台場にある“科学館巡り”としまして、午前中は【船の科学館】午後は【日本科学未来館】を候補に検討しています。9月例会時に申し込み、10月例会に会費徴収の予定です。

◆地域奉仕委員会 (澤渡委員長)

生涯学習サロンのアンケート提出のお願い。

◆例会委員会 (多村委員長)

今日の参加者は58名で出席率は86.6%です。

訃報

当クラブ会員野口正久様

8月14日 15時17分ご逝去

享年86歳

告別式：8月17日 檜原斎場



略歴：地方史研究者として著名。平成18年11月永年の地域文化振興に尽力した功績に対し、文部科学大臣表彰を受けられました。八王子市文化財審議委員・八王子市立中学校長会会長歴任

(3) 同好会報告

○ゴルフ同好会 (小林貞男代表)

9月の12日 予定通り開催します。

○お茶の会 (中野会員)

8月26日ドイツオーケストラメンバーにお茶の接待の説明あり。(既報)

○囲碁の会 (矢崎会員)

10月17日～18日の予定で行われます。



○写真同好会 (矢島会長)

10月6～7日の予定で 乗鞍高原紅葉撮影会を実施します。



○歴史の会 (荒会員)

12回会合は、『中世の八王子』と題して、9月16日にエルシーで開催です。講師は会員でもある大野講師にお願いしています。

○IT塾 (矢崎会員)

毎月第一/第三月曜日開催ですので、奮って御参加ください。

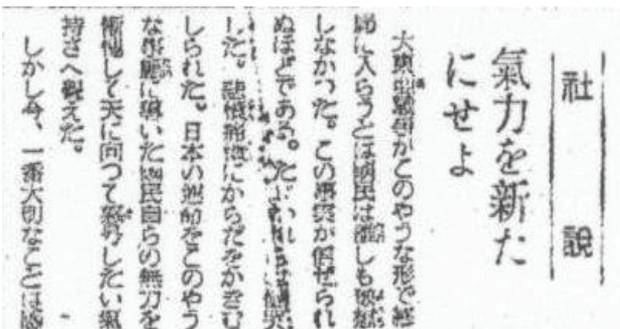
4. その他

渋谷会員 (写真) 8月15日の終戦にあたって、1945年8月16日付け『読売報知新聞』社説から、渋谷会員の知人であり、八王子と縁のある執筆者**故菱山辰一氏** (当時論説委員) について紹介、45歳の若さで、敗戦の混乱の中で社説

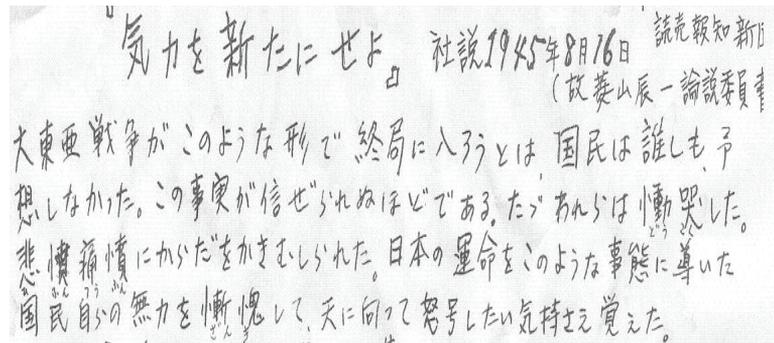


としてこれだけ知性のある論壇に対して畏敬を表わすとの話がありました。また、社説の部分をご子息の**菱山郁郎氏**が手書きで、全て書き換えた文を紹介し内容について説明がありました。

(編注：マイクロフィルムに保存されている当時の新聞にも折り目が入り、判読不明になっておりますので、復元された手書きの文は貴重だと思います)



読売報知新聞 (1945.8.16 社説抜粋)



社説 復元手書き文 (抜粋) 菱山郁郎氏

5. 卓話

『歩く、5街道』

山元哲夫会員 (写真)

ウォーキングの利点

①心臓を強化する

心臓は動脈と静脈がそれぞれの役目を果たし、全身に血液を送り出しています。動脈が酸素を多く含んだ血液を全身に送り出し、静脈が全身から古い血液を送り出す役目をしていす。しかし重力に逆らつて、全身からの血液を引き上げるのは心臓にかなりの負担がかかります。これを助ける役目を果たすのが、足のポンプ機能“ミルキングアクション”です。具体的に言うと、筋肉の伸び縮みによる血管の押し上げです。筋肉が血管を強く押すことによって血液を心臓へと押し上げてくれます。心臓の負担を軽減するので

②骨を強化する

人間の仕組みとは不思議なもので、自分が行なった生活によって体が変化してきます。骨に刺激を与えれば、その刺激に耐えられるように骨を強化する変化が自然と発生します。又、ウォーキング中、日光に当たることで、体内にビタミンDが作られます。ビタミンDはカルシウムの吸収を助ける役目を果たすので、刺激を与えた骨にさらに良い効果を与えます。

③脳をきたえストレスを解消する

ウォーキングは有酸素運動(エアロビクス)です。脳に新鮮な酸素を取り入れ、血液量の増加を図り、脳を活発にしてくれます。外の空気を浴びて、軽い運動をすることでリラックスした気分になり、ストレスも緩和されます。

五街道ウォークのすすめ

五街道とはそれぞれ、東海道 中山道 甲州

道中 奥州道中 日光道中です。(下図参照)
 これらの街道は、それこそ太古から自然発生的に形造られてきましたが、慶長5年(1600)関が原の戦いに勝利した徳川家康は天下人となり、その基盤を確保する為に、翌年東海道の整備に着手、その翌年中山道(当初、東海道に対して東山道と呼ばれた)と逐次整備に取り掛かりました。整備とは、街道に宿場を正式に設けたのです。無論、1里ごとの1里塚、松並木の植栽、石畳の敷設なども。大名や公卿が宿泊する本陣(ほんじん)、それに順ずる脇本陣(わきほんじん)、公用でない武士や庶民が宿泊する旅籠(はたご)、格安な木賃宿(きちんやど)の宿泊施設が集中していました。宿場の本来の機能を理解するには街道を鉄道と見れば簡単です。宿場は駅なのです。つまり情報の伝達業務と物資の流通が最重要業務だったのです。家康が天下掌握の要と考えたのでしょう。この業務を担当したのが問屋(といや)です。隣の駅から送られてきた書簡や荷を次宿の問屋に送り届けることです。これを宿駅制度といいます。つまり、街道という鉄道を設け、宿場という駅を設け、貨車と郵便列車を走らせたのです。まさしく今日の物流システムとインターネットに相当するものです。そして幕府は、これら五街道を各藩に任せず、直轄、つまり国道扱いとし国土交通省ならぬ道中奉行の直接支配としたのです。

参勤交代制度、庶民の物見遊山の旅の普及により各宿場の宿泊設備が次第に充実しました

これがウオーキングのフィールド五街道なのです。(終り)



- 東海道 : 492km
- 中山道 : 505km
- 甲州道中 : 208km
- 日光道中 : 208km
- 奥州道中 : 85km

6. プロバスソング斉唱

7. 閉会 (矢崎幹事代)



下山副会長(欠席)に代わりまして、ご挨拶いたします。今日は健康の話ができました。

例会委員長からは、よく睡眠を取れ、卓話の山元さんは、よく歩け、と云われました。

私からは、よく水を飲め と付け加えます。加齢により、乾きの検知能力が衰えるそうです。よく水を補給して、暑い夏を乗り越え、9月の例会には元気で集まりましょう

(例会終了) (記録: 松尾情報委員)



投稿

154の野ばらの歌

平原俊彦会員

「野ばらの歌」といえば「童は見たり、野中のばら・・・」という、かのゲーテが詩を作り、シューベルト、ウェルナーが曲をつけた二つの「野ばら」がわが国ばかりではなく、世界中で有名であるが、しかしドイツの研究者モーザー博士(名ソプラノ歌手エッダ・モーザーの父君)の研究によるとこのゲーテの詩による野ばらはヨーロッパ中心に世界で実に10数カ国154曲あるというからおどろきである。その中にはベートーベン、シューマン、ブラームス、メンデルスゾーンなどのいわゆる巨匠ばかりでなく、オペレッタの王様レハールなどなど百数十人の作曲家がてがけている。作曲家の国もドイツ、オーストリーはもとより、イギリス、スイス、フランス、オランダ、スウェーデン、デンマーク、ハンガリー、ポーランド、アルメニアなどなど多岐にわたっている。

何故この詩が100人以上もの多くの作曲家を魅了したのか、それは此の曲が、ゲーテの一時代前の子供のための〔エルグ学校唱歌集〕のやさしさ、単純さ、を参考にして、ゲーテが万人に楽しめる作品を書いたからに他ならない。ブラームス、メンデルスゾーンなどの曲はこの考えに沿い大変美しく楽しい曲にしあげているが、ベートーベンはこの詩の作曲に失敗、未完成に終わった。それはこの詩のもっている楽しさ、愛らしさと、ベートーベンの作曲時の人生に対する苦悩の追求というテーマとのアンバランスとにあったのではないかと考えられる。

現在日本ではこの[野ばら集]の91曲の楽譜が出版されている。中でもそのうち30曲ほどは美しい景色などを入れた楽しいビデオになっている。又の機会に見て頂きたいものだ。



Alberta

三内丸山遺跡・縄文最大の集落訪問

(H20年7月11日)

歴史の会会長 荒正勝

青

森湾の沖から丸木舟の集団が戻ってくる。今日はブリの大漁だ。女子供を含めて集落総出で水揚げを手伝い、魚を作業場に運び、共同で乾燥や塩漬けの作業を始める。作業場と想定される建物は巾約10m、長さ32mの大型竪穴住居で復元展示されている。

釣りの得意な人達は体長1mものマダイを何本も釣上げて戻ってくる。ここ三内丸山遺跡からは魚の骨が大量に出土していて、サメの骨が43%と一番多く、次いでブリの25%、タイが8%、ちなみにマグロは1%以下。また動物性食料ではムササビ39%、ノウサギ36%で、シカやイノシシは合わせて5%。一方、毎日の食卓ではクリやクルミが大量に料理されていた。ドングリ類やトチの実はほとんど見当たらない。集落の東側や南東には人為的に作られた広大なクリ林が想定されている。植物性食料を地下に貯蔵する貯蔵穴も多数発掘され、さらに貯蔵に適した壺型土器も出土。食料を保管する高床式倉庫も多数ある。

住居は、6丈1間ほどの竪穴住居が600棟ばかり発掘されていて、建て替え、拡張を繰り返した跡が見える。集落が1500年続いた証だ。さらに発掘が進めば住居跡は3000棟になるという。

集落の西北端で径2m、深さ2mの柱穴6本と、穴底に径1mもの柱根が発見された。柱はクリ材で根元の太さから、高さ15~16mの建物が想定され、一躍この遺跡の名声を高めた。ではこの集落の住人は最盛期に何人位いたのか。これには50人から500人と諸説ある。

大林組は前記建物の地質調査を行い、柱底の土にかかった荷重から柱の重さを6.5t、長さを



写真-1 16.5mと計算し、この柱を6本立て、六本柱建物(写真1)として組み上げるのに必要な稼働人員と後援の人を合計で200人と見積った。この結果集落の総人口を500人と推定した。

いま三内丸山の象徴的な建物として復元研究未了の状態で見学されているが、見学者を驚嘆させるには十分である。この遺跡はBC3500~2000年まで定住生活が営まれていた縄文時代最大級の集落跡として国の特別史跡になっている。

青森は縄文のまほろば

三内丸山集落が栄えていた時期、気候は温暖化が進み、気温で+2度、海水面で2~6m高く、海水は内陸深く進入していた。そのため縄文遺跡は、三内丸山を中心に海に沿った高台に分布、さらに日本海沿岸、太平洋側に遺跡は集中している。それぞれの遺跡から出土する黒曜石は北海道産から長野産まであり、ヒスイも糸魚川産が多数発見される。内陸の遺跡からはブリやサバの骨が多数出てきて、盛んな交易と技術交流のあったことが想像される。



<展示室で解説員の説明を聞くプロバス会員(写真-2 上)>

六ヶ所村立郷土館のホームページを見ると、縄文最古の1万2千年前の隆起線文土器(写真3)が紹介され、また縄文後期約4千年前の縄文美子かめ棺と名づけられた棺が出土し、埋葬されていた人骨から18~19歳の女性像が復元され、我々に縄文美人と対面する機会を与えてくれている。歴史の会は美子像(写真4)を目前にして対面の機会を逸した。



写真3 隆起線文土器



写真4 縄文美子復元像

写真3, 4は 六ヶ所村立郷土館提供です

(以上、文・写真 荒正勝氏)

編集後記:

今月は多くの方から資料を頂きました。ありがとうございました。配布された終戦翌日の「読売報知新聞」、虫眼鏡で一読を。編集途中で、野口正久様の訃報が入りました。謹んで、ご冥福をお祈りします。

次回10月例会は10月9日12時30分です。
服装規定  クルビズは終わりました。